

# ECONOMY TOPICS

## 経済トピックス

2009.11.4

No.400



### 業況 BSI、非製造業に改善の動き (平成 21 年 7～9 月期の県内企業業況調査結果)

調査内容	平成 21 年 7～9 月期の県内企業の業況実績 平成 21 年 10～12 月期の県内企業の業況見通し
調査時期	平成 21 年 10 月上旬
調査対象企業	県内中堅企業 256 社
回答企業	160 社(回収率:62.5%)
	製造業 37 社    建設業 28 社    卸売業 31 社 小売業 31 社    運輸業 10 社    サービス業 23 社
	青森地区 54 社    津軽地区 46 社    県南地区 60 社

B.S.Iとは

business survey index の略であり、企業業況判断指標という意味である  
指標の求め方は次の通り

B.S.I=「業況良好企業及びやや良好企業の割合」-「業況不振及び  
やや不振企業の割合」

注:業況判断は前年同期との比較による

# 1. 概 況

平成 21 年 7～9 月期の全産業「業況 BSI」は前期(21 年 4～6 月期)比 8.6 ポイント上昇の 35.0 となった。業況悪化とする企業の割合が 5 割を超えており、依然として経営環境の厳しさがうかがわれる中、小売業を中心に非製造業で改善がみられた。

一方、全産業「採算 BSI」は前期比 3.6 ポイント低下の 32.7 となり、3 期ぶりに低下した。小売業で改善がみられたものの、他の産業は再び低下した。採算悪化の割合が再び 4 割を超え、依然として収益面での厳しさが続いていることがうかがわれる。

主要 BSI をみると、「生産高 BSI」、「操業度 BSI」は、ともに低下した。食料品や一般機械など、一部に増産の動きがみられるものの、全体としては減産傾向が続いていることがうかがわれる。

建設業の「受注高 BSI」は、公共工事の

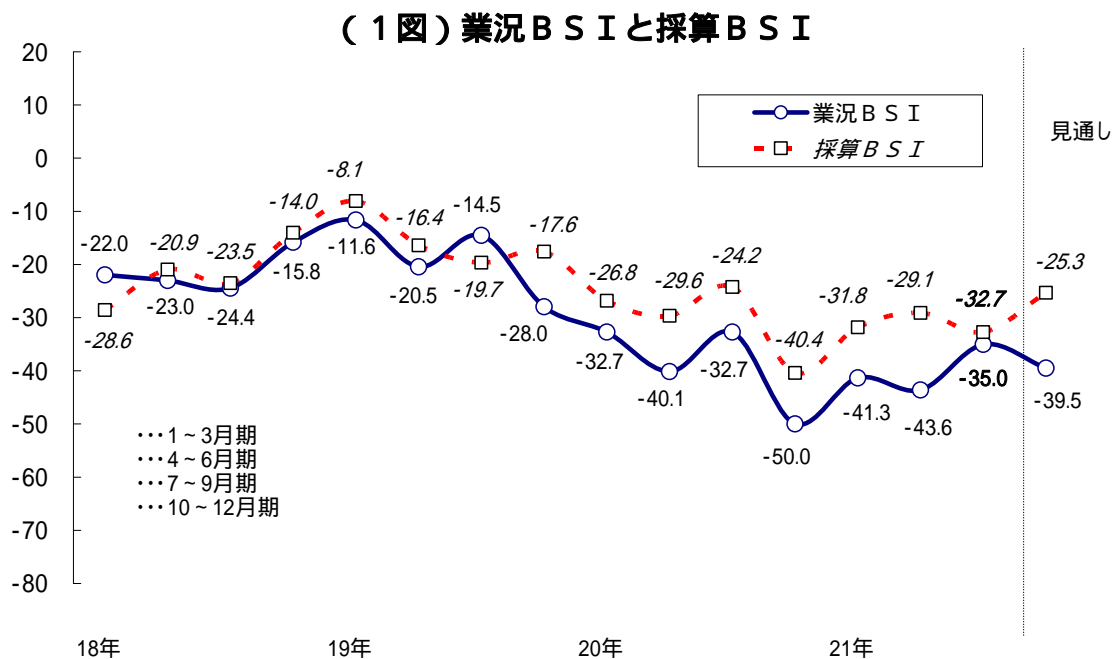
前倒し発注などから、受注増加とする割合が 7 期ぶりに 3 割を超え、大幅に上昇した。

「売上高 BSI」は小売業が大幅に上昇し、全体を押し上げた。「出荷高 BSI」は再び低下した。

「設備投資 BSI」は製造業が大幅に上昇、一方、非製造業は幾分低下し、盛り上がりを欠いた動きとなった。

来期の見通しをみると、「業況 BSI」は当期比幾分低下する見込みである。製造業、卸売業で上昇が見込まれているものの、建設業が大幅に落ち込むほか、小売業、運輸・サービス業も幾分の低下が見込まれるなど、産業間での業況格差がみられる。一方、「採算 BSI」は建設業、小売業が落ち込むものの、製造業、卸売業は大幅に改善する見通しであり、全体では上昇が見込まれている。

(以上、1～12 図,1 表 参照)



## 2. 21年7～9月期の業況

### (1) 業況

#### 業況BSI、小売業が大幅に改善

21年7～9月期の全産業「業況BSI」は前期比8.6ポイント上昇の35.0となった。

業況判断の内訳をみると、業況好転とする企業の割合が前期比6.3ポイント増加の21.0%、一方、業況悪化とする企業の割合は同2.2ポイント減少の56.1%となった。

産業別の「業況BSI」をみると、製造業は前期比4.3ポイント低下の-43.2となった。一般機械、食料品の日配品などで好転がみられるものの、水産加工、窯業・土石、パルプ・紙などで悪化割合が増加した。

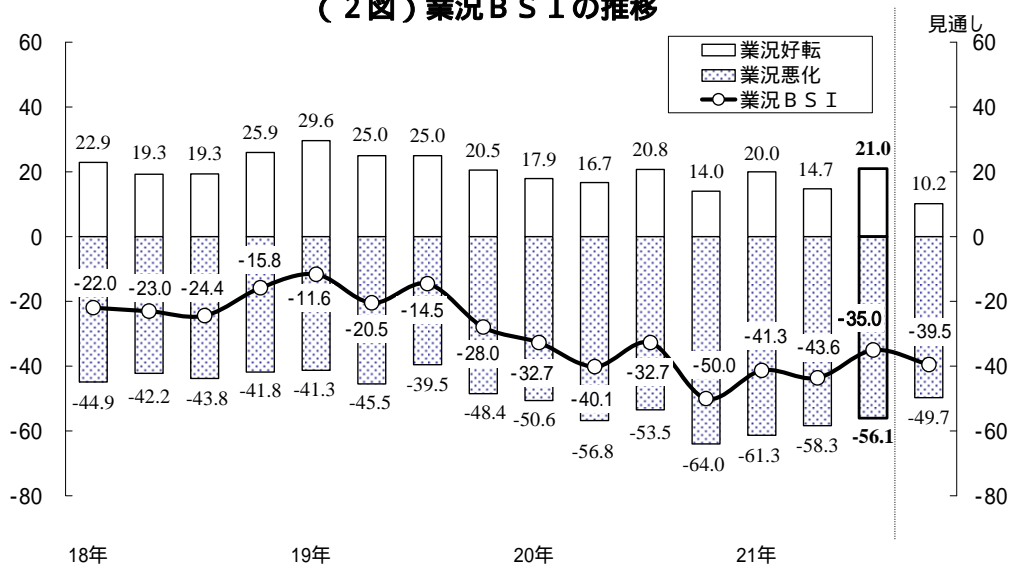
非製造業は、小売業が前期比23.5ポイント上昇の17.2と大幅に改善したほか、運輸・サービス業が同9.7ポイント上昇の30.3、卸売業が同8.9ポイント上昇の

56.7、建設業が同7.3ポイント上昇の25.0とそれぞれ上昇した。小売業は自動車販売で好転割合が増加したほか、中古自動車、燃料で好転がみられた。運輸・サービス業は宿泊、港湾運送、不動産、葬祭で好転がみられた。卸売業は悪化が大勢を占める中、水産物、米穀など食料品で悪化割合が幾分減少した。建設業は悪化割合が幾分減少した。

当期の「業況BSI」は、業況悪化とする企業の割合が5割を超えており、依然として経営環境の厳しさがうかがわれる中、小売業を中心に非製造業で改善がみられた。

(以上、2図、付表 参照)

(2図) 業況BSIの推移



(付表) 産業別業況BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
20年 7 - 9月期	-17.6	-51.7	-37.1	-19.2	-37.1	-32.7
20年10 - 12月期	-33.3	-40.0	-56.7	-64.0	-59.4	-50.0
21年 1 - 3月期	-48.6	-43.3	-50.0	-20.8	-39.4	-41.3
21年 4 - 6月期	-38.9	-32.3	-65.6	-40.7	-40.0	-43.6
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-43.2</b>	<b>-25.0</b>	<b>-56.7</b>	<b>-17.2</b>	<b>-30.3</b>	<b>-35.0</b>
来期見通し	-24.3	-71.4	-46.7	-27.6	-33.3	-39.5

## (2) 採算の状況

### 採算BSI、3期ぶりに低下

21年7～9月期の全産業「採算BSI」は前期比3.6ポイント低下の-32.7となった。

採算判断の状況をみると、採算好転とする企業の割合は前期比3.7ポイント増加の11.3%、一方、採算悪化とする企業の割合は同7.3ポイント増加の44.0%となった。

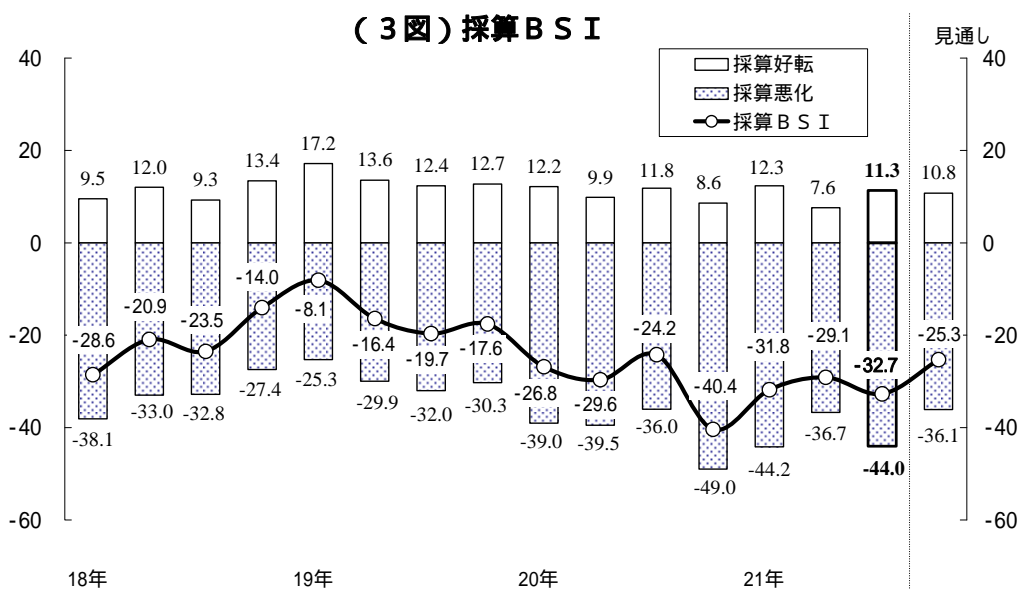
産業別の「採算BSI」をみると、製造業は前期比13.5ポイント低下の-30.6となった。水産加工などの食料品で悪化に転じる動きがみられたほか、パルプ・紙、生コンで悪化の動きが目立った。

非製造業は、小売業が前期比23.6ポイント上昇の-9.7となったものの、卸売業は同12.4ポイント低下の-58.1、建設業は同13.1ポイント低下の-35.7、運輸・サービス業は同3.6ポイント低下の-30.3とそれぞれ

れ低下した。小売業は自動車販売、中古車販売、燃料販売などで採算好転がみられた。卸売業は水産物、建材、重機などで悪化がみられた。建設業は悪化とする企業の割合が増加した。また、卸売業、建設業とも好転とする割合はゼロであった。運輸・サービス業はリース、社会保険サービスなどで好転がみられたものの、貨物運送、宿泊、広告では悪化とする割合が増加した。

当期の全産業「採算BSI」は、小売業で改善がみられたものの、他の産業が低下し、3期ぶりに低下した。採算好転とする企業の割合は増加したものの、採算悪化の割合が再び4割を超え、収益面での厳しさが依然として続いていることがうかがわれる。

(以上、3図、付表 参照)



(付表) 産業別採算BSIの推移

	製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
20年7～9月期	-6.3	-37.9	-19.4	-25.0	-33.3	-24.2
20年10～12月期	-33.3	-40.0	-46.7	-42.3	-40.6	-40.4
21年1～3月期	-29.4	-26.7	-46.7	-22.2	-33.3	-31.8
21年4～6月期	-17.1	-22.6	-45.7	-33.3	-26.7	-29.1
<b>21年7～9月期</b>	<b>-30.6</b>	<b>-35.7</b>	<b>-58.1</b>	<b>-9.7</b>	<b>-30.3</b>	<b>-32.7</b>
来期見通し	-5.6	-50.0	-32.3	-12.9	-31.3	-25.3

### (3) 生産高・操業度の状況

#### 生産高 BSI、操業度 BSI ともに低下

21 年 7～9 月期の「生産高 BSI」は前期比 10.3 ポイント低下の 38.9、「操業度 BSI」は同 4.4 ポイント低下の 40.5 となった。

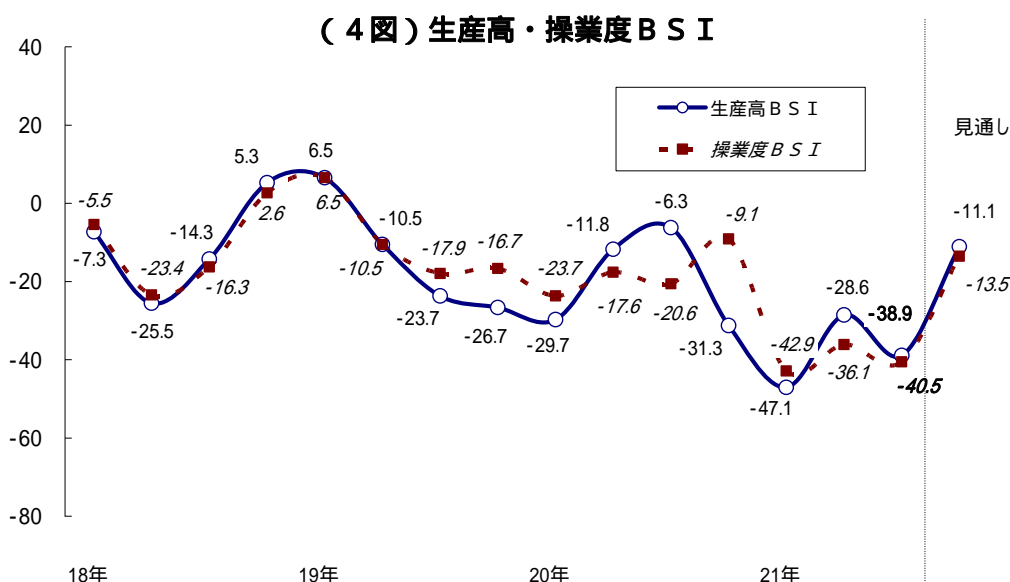
業種別にみると、食料品は水産加工で増産とする割合が増加したものの、飲料では減産に転じる動きがみられた。精密機械、電子部品・デバイスでは減産が続いており、パルプ・紙、窯業・土石では減産とする割合が広がっている。

当期の生産高 BSI、操業度 BSI は、とも

に再び低下した。食料品や一般機械など一部で増産の動きがみられるものの、全体としては依然として減産傾向が続いていることがうかがわれる。

なお、来期の見通しは「生産高 BSI」が当期比 27.8 ポイント上昇の 11.1、「操業度 BSI」が同 27.0 ポイント上昇の 13.5 と、ともに大幅に上昇すると見込まれている。

(以上、4 図 参照)



### 受注高の状況

#### 公共工事前倒し発注などから、受注高 BSI 大幅上昇

21 年 7～9 月期の建設業の「受注高 BSI」は前期比 30.5 ポイント上昇の 17.9 となった。

内訳をみると、受注増加とする企業の割合は前期比 16.3 ポイント増加の 35.7%、一方、受注減少とする企業の割合は同 14.1

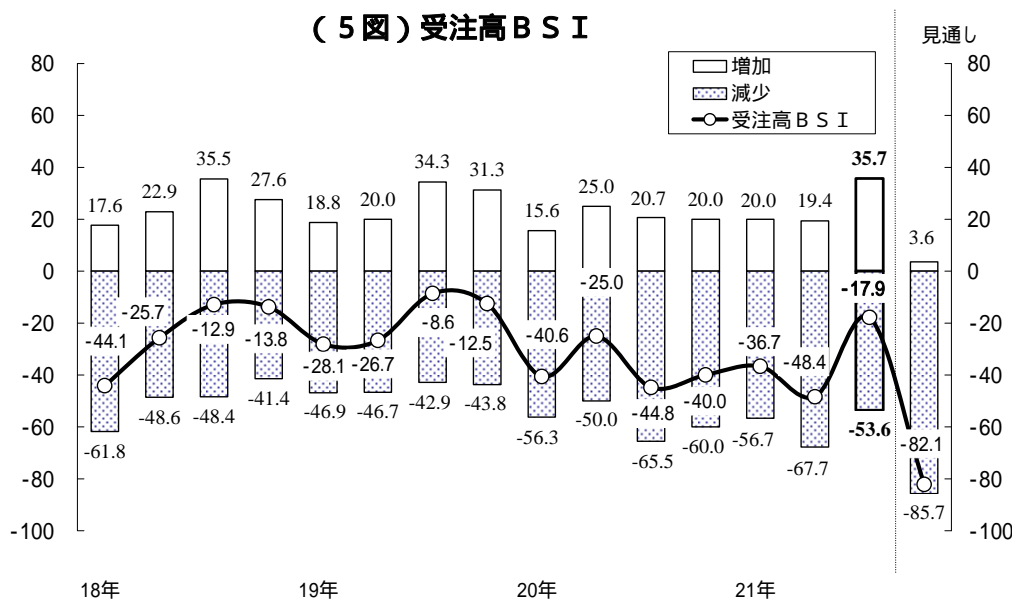
ポイント減少の 53.6%となった。当期は公共工事の前倒し発注などから、受注増加とする割合が 7 期ぶりに 3 割を超え、受注高 BSI は大幅に上昇した。

来期は受注増加とする企業の割合が 3.6%と大幅に減少し、受注減少とする割合

は 85.7%と大幅に増加する見通しとなっている。この結果、「受注高 BSI」は当期比 64.2 ポイント低下の 82.1 と、再び大幅に

低下し、建設業の先行きは依然として厳しさが続くものとみられる。

(以上、5 図 参照)



#### (4) 売上高・出荷高の状況

##### 小売業の売上高 BSI、大幅に上昇

21 年 7～9 月期の「売上高 BSI」は、前期比 6.5 ポイント上昇の 50.5 となった。

産業別の「売上高 BSI」をみると、運輸・サービス業が前期比 10.9 ポイント低下の 57.6 となったものの、小売業は同 24.6 ポイント上昇の 29.0 と大幅に上昇し、全体を押し上げたほか、卸売業が同 4.1 ポイント上昇の 64.5 となった。運輸・サービス業は旅客・貨物運送、宿泊で売上減少とする割合が広がった。小売業は自動車販売で減少とする割合が縮小したほか、中古自動車、農機具で売上増加に転じる動きがみられた。卸売業は建築資材、食料品で売上減少が大勢を占める中、農機具、事務機器などで増加がみられた。

なお、来期の「売上高 BSI」は、当期比 8.4 ポイント上昇の 42.1 となる見通しである。産業別では、小売業が同 3.3 ポイント低

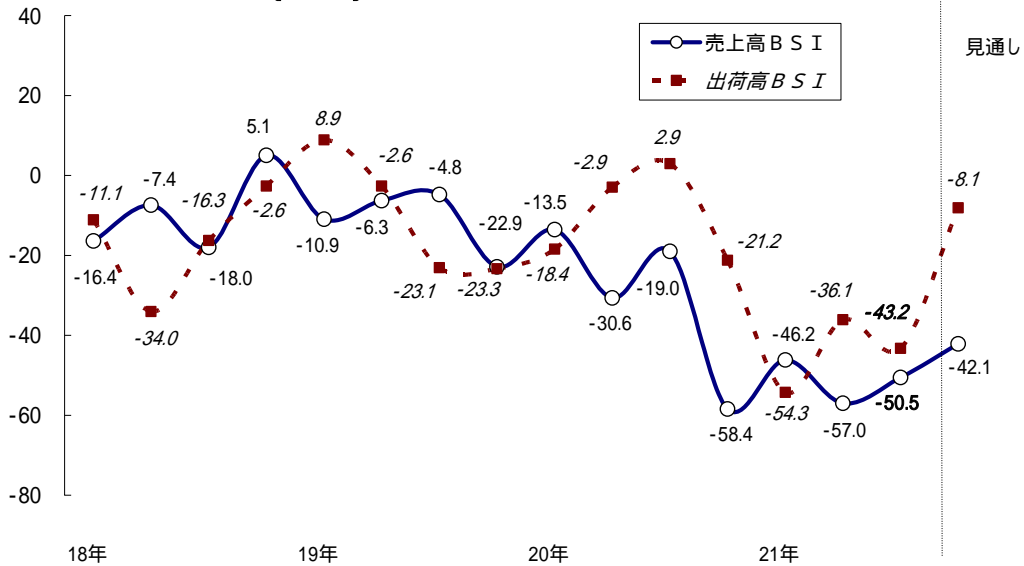
下の 32.3 と低下が見込まれるものの、卸売業は同 22.6 ポイント上昇の 41.9、運輸・サービス業は同 6.1 ポイント上昇の 51.5 とそれぞれ上昇する見通しである。

製造業の 21 年 7～9 月期の「出荷高 BSI」は前期比 7.1 ポイント低下の 43.2 と再び低下した。水産加工で増加が続いているものの、パルプ・紙、窯業・土石、木材・木製品では減少がみられた。

なお、来期の「出荷高 BSI」は、当期比 35.1 ポイント上昇の 8.1 と大幅な上昇が見込まれている。電子部品・デバイス、精密機器のほか、食料品の水産加工、飲料で増加に転じる見通しとなっている。

(以上、6 図、付表 参照)

(6図) 売上高・出荷高BSI



(付表) 売上高・出荷高BSIの推移

	出荷高BSI		売上高BSI		
	製造業	卸売業	小売業	運輸・サービス	
20年 7 - 9月期	2.9	-16.7	-10.7	-27.8	-19.0
20年 10 - 12月期	-21.2	-48.4	-69.2	-59.4	-58.4
21年 1 - 3月期	-54.3	-41.9	-59.3	-39.4	-46.2
21年 4 - 6月期	-36.1	-68.6	-53.6	-46.7	-57.0
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-43.2</b>	<b>-64.5</b>	<b>-29.0</b>	<b>-57.6</b>	<b>-50.5</b>
来期見通し	-8.1	-41.9	-32.3	-51.5	-42.1

## (6) 価格の状況

### 仕入単価、販売単価ともにほぼ横バイ

21年7~9月期の「仕入単価BSI」は前期比0.7ポイント上昇の2.4となった。

産業別にみると、製造業が前期比7.9ポイント低下の10.8、非製造業は同4.3ポイント上昇の1.1となった。製造業は、水産加工で仕入単価低下の動きが目立ったほか、パルプ・紙、鉄鋼でも低下がみられた。非製造業は、卸売業が同4.0ポイント低下の9.7、建設業が同2.2ポイント低下の10.7となったものの、小売業は同21.1ポイント上昇の3.2と大幅に上昇した。卸売業は燃料関係や米穀卸などで上昇割合が減少した。建設業は低下割合が幾分減少した。

小売業は自動車販売で上昇が目立ったほか中古車販売、農機具販売でも上昇がみられた。

次に、「販売単価BSI」は前期比0.5ポイント低下の26.3となった。

産業別にみると、製造業が前期比2.5ポイント低下の10.8、非製造業は同横バイの30.9となった。製造業は水産加工や精密機器などで販売単価の低下割合が幾分増加した。非製造業は、建設業が同10.9ポイント低下の46.4、卸売業が同7.3ポイント低下の38.7とそれぞれ低下した。一方、小売業は同13.5ポイント上昇の25.8、

運輸・サービス業は同 2.0 ポイント上昇の 15.2 とそれぞれ上昇した。建設業は販売単価の低下割合が増加し、上昇割合はゼロとなった。卸売業は燃料関係で低下に転じる動きがみられたほか、水産物などの食料品、建築資材で低下が目立った。小売業は自動車販売で上昇に転じる動きがみられたほか、中古車販売、農機具販売で上昇がみられた。運輸・サービス業は宿泊、旅行代理店で低下割合が幾分減少した。

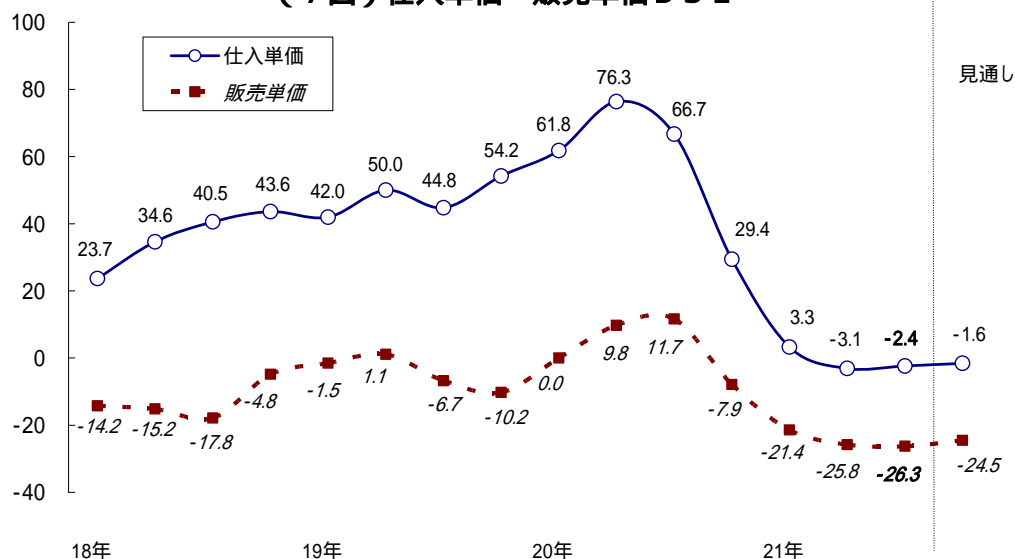
価格面の動きをみると、仕入単価、販売

単価とも小売業で上昇の動きが見られたものの、全体としてはほぼ横バイの動きとなった。

なお、来期については、「仕入単価 BSI」が当期比 0.8 ポイント上昇の 1.6、「販売単価 BSI」が同 1.8 ポイント上昇の 24.5 とそれぞれ小幅な上昇が見込まれている。

(以上、7 図、付表 参照)

(7 図) 仕入単価・販売単価 B S I



(付表) 仕入単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業					仕入単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	非製造業		
20年 7 - 9月期	78.8	86.2	52.8	50.0	62.4	66.7
20年10 - 12月期	36.4	44.8	12.9	23.1	26.7	29.4
21年 1 - 3月期	8.6	10.0	-16.7	11.1	1.1	3.3
21年 4 - 6月期	-2.9	12.9	-5.7	-17.9	-3.2	-3.1
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-10.8</b>	<b>10.7</b>	<b>-9.7</b>	<b>3.2</b>	<b>1.1</b>	<b>-2.4</b>
来期見通し	-10.8	10.7	-3.2	0.0	2.2	-1.6

(付表) 販売単価 B S I の推移 (上昇-低下)

	製造業						販売単価 BSI
	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	非製造業		
20年 7 - 9月期	38.2	-20.7	44.4	-10.7	-2.8	4.7	11.7
20年10 - 12月期	18.2	-26.7	0.0	-23.1	-12.5	-15.1	-7.9
21年 1 - 3月期	8.8	-46.7	-35.5	-15.4	-21.2	-30.0	-21.4
21年 4 - 6月期	-8.3	-35.5	-31.4	-39.3	-17.2	-30.9	-25.8
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-10.8</b>	<b>-46.4</b>	<b>-38.7</b>	<b>-25.8</b>	<b>-15.2</b>	<b>-30.9</b>	<b>-26.3</b>
来期見通し	-21.6	-44.4	-29.0	-16.1	-15.2	-25.4	-24.5

## (7) 在庫投資・在庫水準の状況

### — 製造業の在庫投資 BSI 大幅に低下 —

21年7～9月期の「在庫投資 BSI」は、製造業が前期比 25.5 ポイント低下の△16.7 と大幅に低下し、再びマイナスに転じた。一方、非製造業は同 2.7 ポイント上昇の△29.0 と幾分上昇した。製造業は、水産加工、飲料などの食料品、電子部品・デバイスで在庫手控えの動きが目立った。非製造業は、食料品、建築資材などの卸売業や、自動車販売などの小売業で手控えの動きが幾分弱まった。なお、来期の在庫投資 BSI は、製造業が当期比横バイの△16.7、非製造業も同横バイの△29.0 と、ともに在庫手控えの動きが続くと見込まれている。

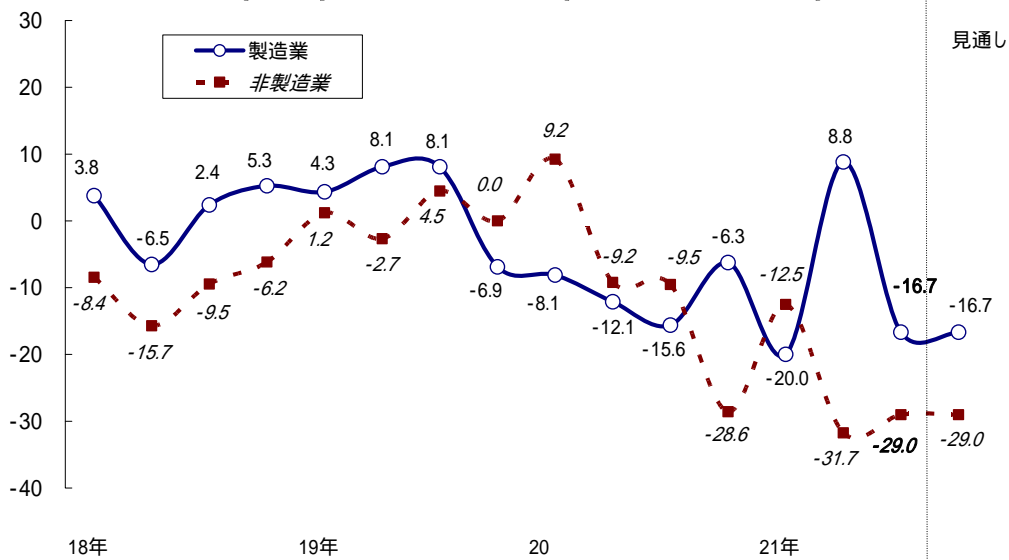
次に在庫水準についてみると、まず製造業の「原材料在庫水準 BSI」は前期比 8.6

ポイント低下の 0.0 となった。在庫調整の進捗から、適正とする企業が大勢を占めており、来期もほぼ同様の動きが見込まれている。

一方、「製品・商品在庫水準 BSI」は、製造業の製品在庫水準 BSI が前期比 9.2 ポイント低下の 19.4、卸・小売業の商品在庫水準 BSI は同 4.5 ポイント低下の 6.6 となった。製品は飲料、水産加工などの食料品や木材・木製品で過剰感が幾分縮小した。商品は全体に過剰感が縮小した。来期は製品、商品ともに適正とする割合が広がっていくものと見込まれている。

(以上、8 図、付表 参照)

(8 図) 在庫投資 B S I (製造業、非製造業)



(付表) 在庫関連 B S I の推移

	在庫投資 BSI		原材料在庫水準 BSI	製品・商品在庫水準 BSI	
	製造業	非製造業	製造業	製造業	卸・小売業
20年 7 - 9月期	-15.6	-9.5	3.1	6.3	17.2
20年 10 - 12月期	-6.3	-28.6	9.1	3.1	14.3
21年 1 - 3月期	-20.0	-12.5	2.9	23.5	16.1
21年 4 - 6月期	8.8	-31.7	8.6	28.6	11.1
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-16.7</b>	<b>-29.0</b>	<b>0.0</b>	<b>19.4</b>	<b>6.6</b>
来期見通し	-16.7	-29.0	0.0	8.3	3.3

## (8) 設備投資の動向

—製造業が大幅に上昇—

21年7～9月期の「設備投資BSI」は、製造業が前期比17.6ポイント上昇の△16.7と大幅に上昇した。一方、非製造業は同2.4ポイント低下の△31.5となった。

製造業の設備投資は、パルプ・紙で増産・環境保全対策、化学工業で新事業設備などの投資が見られたほか、食料品では水産加工、日配品で設備更新、環境対策などの投資が目立った。

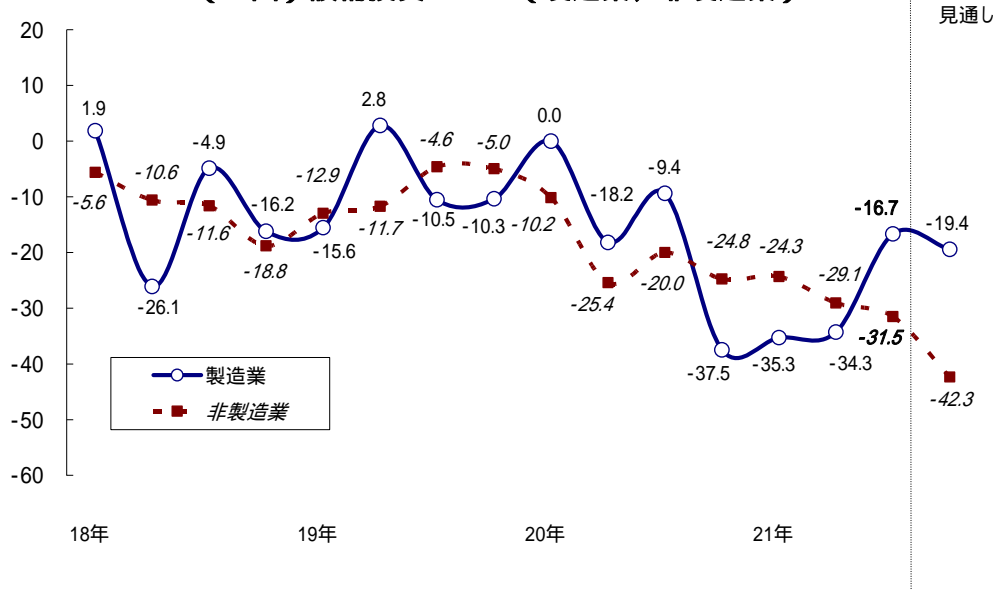
一方、非製造業は、スーパーの店舗建設、旅客・貨物運輸で車輛の修繕・更新、研修設備整備などの投資が小売業、運輸・サービス業で見られたものの、建設業、卸

売業は前年を下回る動きが大勢を占め、全体としてはに盛り上がりを欠いた動きとなった。

なお、来期の設備投資BSIは、製造業が当期比2.7ポイント低下の△19.4と幾分低下する見通しとなっている。一方、非製造業は同10.8ポイント低下の△42.3とさらに落ち込む見通しであり、低調な動きが続くものと予想される。

(以上、9図 参照)

(9図) 設備投資BSI (製造業、非製造業)



## (9) 企業金融の動向

—全体的に落ち着いた動き—

21年7～9月期の企業金融の動向をみると、「現金・預金BSI」が前期比0.1ポイント上昇の△18.7とほぼ横バイとなったものの、「借入難易BSI」は同4.6ポイント低下

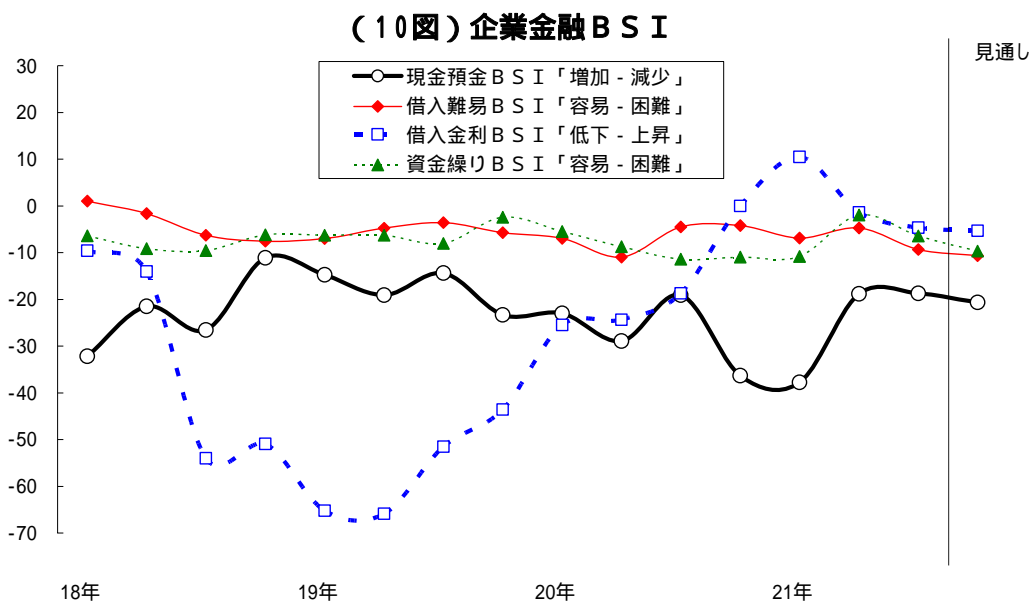
の△9.3、「借入金利BSI」は同3.3ポイント低下の△4.7、「資金繰り難易BSI」は同4.6ポイント低下の△6.5と、それぞれ低下した。借入難易度、資金繰りで困難とする

割合が幾分増加したものの、政府の経済対策効果などから全体としては比較的落ち着いた動きが見られる。

なお、来期はほぼ当期と同様の動きが予

想されるが、資金繰り面では窮屈さが幾分増すものとみられる。

(以上、10 図,付表 参照)



(付表) 企業金融 B S I の推移

	現金預金BSI (増加 - 減少)	借入難易BSI (容易 - 困難)	借入金利BSI (低下 - 上昇)	資金繰りBSI (容易 - 困難)
20年 7 - 9月期	-19.1	-4.5	-18.7	-11.4
20年10 - 12月期	-36.3	-4.2	0.0	-11.0
21年 1 - 3月期	-37.7	-6.9	10.5	-10.8
21年 4 - 6月期	-18.8	-4.7	-1.4	-1.9
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-18.7</b>	<b>-9.3</b>	<b>-4.7</b>	<b>-6.5</b>
来期見通し	-20.6	-10.7	-5.3	-9.7

## (10) 地区別の状況

業況 B S I、青森地区、津軽地区で大幅に上昇—

21年 7～9 期の「業況 B S I」を地区別にみると、県南地区が前期比 9.1 ポイント低下の△52.5 となったものの、青森地区は同 17.4 ポイント上昇の△35.2、津軽地区は同 21.2 ポイント上昇の△11.4 とそれぞれ大幅に上昇した。

主要 B S I をみると、まず、「生産高 B S I」は、県南地区が前期比 3.5 ポイント上昇の△27.8 となったものの、津軽地区は同 50.0 ポイント低下の△62.5 と大幅に低下したほか、青森地区が同 3.6 ポイント低下の△

40.0 となった。

「出荷高 B S I」は、県南地区が前期比 12.5 ポイント低下の△50.0、青森地区が同 3.6 ポイント低下の△40.0、となり、津軽地区は同横バイの△33.3 となった。

「売上高 B S I」は、県南地区が前期比 5.8 ポイント低下の△75.0 となったものの、津軽地区は同 18.4 ポイント上昇の△28.0、青森地区は同 11.7 ポイント上昇の△44.7 とそれぞれ上昇した。

建設業の「受注高 B S I」は、県南地区が

前期比 6.7 ポイント低下の△40.0 となったものの、青森地区は同 61.1 ポイント上昇の△16.7、津軽地区は同 40.0 ポイント上昇の 0.0 とそれぞれ大幅に上昇した。

当期の地域別業況 BSI は、地区ごとに産業構造、生産活動などの違いによりバラツキがみられ、全体に厳しい状況が続いていることがうかがわれた。

なお、来期の「業況 BSI」をみると、県南地区が当期比 5.0 ポイント上昇の△47.5、青森地区が同 3.7 ポイント上昇の△31.5 とそれぞれ上昇が見込まれているものの、津

軽地区は同 27.2 ポイント低下の△38.6 と大幅な低下が見込まれている。主要 BSI をみると、「生産高 BSI」は青森地区、津軽地区で大幅上昇、県南地区では横バイと見込まれている。「出荷高 BSI」は 3 地区とも大幅な上昇が見込まれている。「売上高 BSI」は青森地区、県南地区では上昇、津軽地区では低下が見込まれている。「受注高 BSI」は 3 地区とも再び大幅に低下すると見込まれている。

(以上、1 表 参照)

(1 表) 地域別 B S I の推移

	業況BSI			生産高BSI			出荷高BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
20年 7 - 9月期	-44.6	-40.4	-14.3	-25.0	0.0	0.0	11.1	-14.3	5.6
20年10 - 12月期	-50.9	-72.7	-29.4	-18.2	-42.9	-35.7	9.1	-75.0	-14.3
21年 1 - 3月期	-32.1	-54.2	-39.1	-50.0	-62.5	-37.5	-30.0	-100.0	-43.8
21年 4 - 6月期	-52.6	-32.6	-43.4	-36.4	-12.5	-31.3	-36.4	-33.3	-37.5
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-35.2</b>	<b>-11.4</b>	<b>-52.5</b>	<b>-40.0</b>	<b>-62.5</b>	<b>-27.8</b>	<b>-40.0</b>	<b>-33.3</b>	<b>-50.0</b>
来期見通し	-31.5	-38.6	-47.5	0.0	12.5	-27.8	0.0	22.2	-27.8
	売上高BSI			受注高BSI			在庫投資BSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
20年 7 - 9月期	-40.0	-9.7	0.0	-62.5	-81.8	10.0	-22.2	-21.7	5.6
20年10 - 12月期	-71.4	-70.4	-29.6	-33.3	-70.0	-18.2	-22.9	-36.4	-6.5
21年 1 - 3月期	-43.6	-50.0	-45.5	-62.5	-50.0	0.0	-16.7	-20.8	-9.7
21年 4 - 6月期	-56.4	-46.4	-69.2	-77.8	-40.0	-33.3	-7.9	-16.0	-29.4
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-44.7</b>	<b>-28.0</b>	<b>-75.0</b>	<b>-16.7</b>	<b>0.0</b>	<b>-40.0</b>	<b>-21.1</b>	<b>-42.9</b>	<b>-17.9</b>
来期見通し	-28.9	-32.0	-65.6	-66.7	-91.7	-80.0	-18.4	-28.6	-28.2
	設備投資BSI			採算BSI			資金繰りBSI		
	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南	青森	津軽	県南
20年 7 - 9月期	-12.5	-31.8	-11.5	-35.7	-32.7	-5.4	-12.5	-21.3	-1.8
20年10 - 12月期	-14.0	-37.2	-33.3	-50.0	-44.4	-26.9	-2.0	-26.7	-6.0
21年 1 - 3月期	-28.3	-21.3	-31.1	-30.9	-37.3	-27.1	-5.6	-21.3	-6.4
21年 4 - 6月期	-22.4	-36.4	-34.0	-34.5	-21.7	-29.6	5.2	-9.1	-3.8
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>-26.0</b>	<b>-23.3</b>	<b>-33.3</b>	<b>-32.1</b>	<b>-26.1</b>	<b>-38.3</b>	<b>-5.7</b>	<b>-11.6</b>	<b>-3.4</b>
来期見通し	-32.0	-41.9	-37.0	-21.2	-30.4	-25.0	-5.7	-14.0	-10.2

### 3. 経営上の問題点

—「売上・受注不振」がトップ—

経営上の問題点については、「売上・受注不振」が 70.5% で最も割合が高く、以下「競争の激化」が 66.7%、「収益低下」が 51.9%、「販売・受注単価低下」が 41.0% と

なり、前回同様これら 4 項目に回答が集中した。

産業別にみると、製造業は「売上不振」がもっと多く、「競争激化」がこれに次いだ。

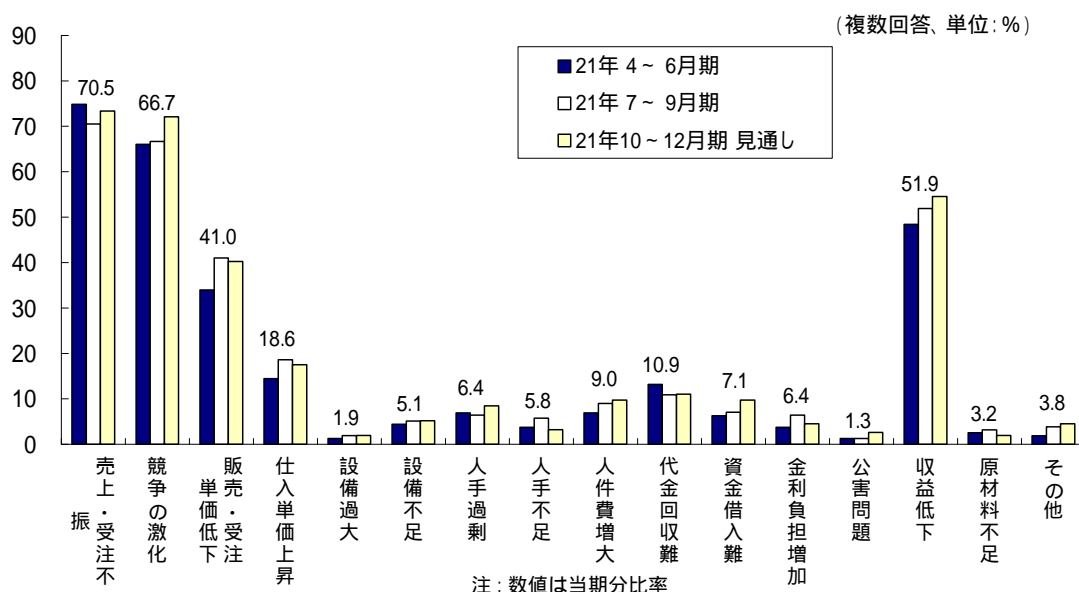
建設業は「競争激化」が回答企業の 8 割以上を占めたほか、「受注不振」も多かった。卸売業は「収益低下」が最も多く、「売上不振」、「競争激化」がこれに次いだ。小売業は「売上不振」と「競争激化」が同率でトップとなった。運輸・サービス業は「売上不振」がトップとなり、「競争激化」、「収益低下」が

これに次いだ。

なお、来期の経営上の問題点についても当期同様、販売競争の激化や、売上・受注不振、収益面の厳しさが続くものと見込まれている。

(以上、11 図、付表 参照)

(11 図) 経営上の問題点



(付表) 経営上の問題点

(複数回答、単位：%)

	売上・受注不振	競争激化	販売・受注単価低下	仕入単価上昇	人件費増大	代金回収難	金利負担増加	収益低下
20年 7 - 9月期	64.6	68.3	26.1	63.4	12.4	9.9	11.2	54.7
20年10 - 12月期	73.7	63.8	34.2	34.2	9.9	11.8	13.8	57.2
21年 1 - 3月期	75.8	67.3	38.6	21.6	10.5	14.4	6.5	51.0
21年 4 - 6月期	74.8	66.0	34.0	14.5	6.9	13.2	3.8	48.4
<b>21年 7 - 9月期</b>	<b>70.5</b>	<b>66.7</b>	<b>41.0</b>	<b>18.6</b>	<b>9.0</b>	<b>10.9</b>	<b>6.4</b>	<b>51.9</b>
来期見通し	73.4	72.1	40.3	17.5	9.7	11.0	4.5	54.5

#### 4. 来期の見通し

来期(21年10～12月期)の「業況BSI」は、全産業ベースで当期比 4.5 ポイント低下の△39.5 となる見込みである。産業別にみると、建設業が当期比 46.4 ポイント低下の△71.4、小売業が同 10.4 ポイント低下の△27.6、運輸・サービス業が同 3.0 ポイント低下の△33.3 とそれぞれ低下が見込まれ

ている。一方、製造業は同 18.9 ポイント上昇の△24.3、卸売業は同 10.0 ポイント上昇の△46.7 とそれぞれ上昇が見込まれている。

次に「採算BSI」をみると、全産業ベースで当期比 7.4 ポイント上昇の△25.3 となる見込みである。産業別にみると、卸売業が

当期比 25.8ポイント上昇の△32.3、製造業が同 25.0ポイント上昇の△5.6とそれぞれ上昇が見込まれている。一方、建設業は同 14.3ポイント低下の△50.0、小売業は同 3.2ポイント低下の△12.9、運輸・サービス業は同 1.0ポイント低下の△31.3とそれぞれ低下が見込まれている。

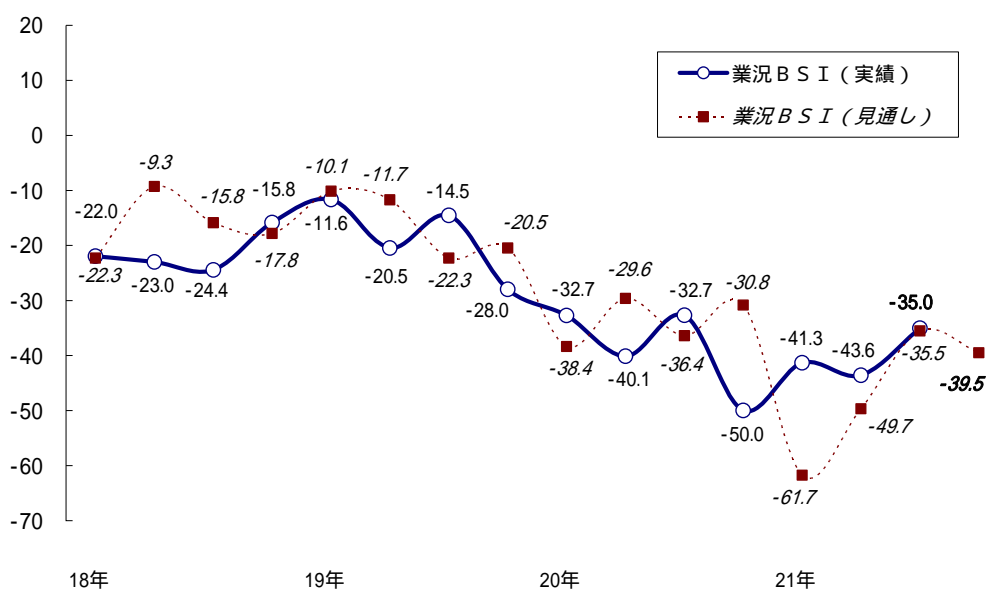
その他の主要 BSI は、生産高、操業度、出荷高が当期比大幅に上昇する見通しであり、売上高も幾分上昇すると見込まれて

いる。一方、受注高は大幅に落ち込むものと見込まれている。設備投資は製造業、非製造業ともに低下する見通しである。

来期の業況は、製造業、卸売業では上昇が見込まれるものの、建設業が大幅に落ち込むほか、小売業、運輸・サービス業も幾分の低下が見込まれるなど、産業間での業況格差がみられ、全体としては幾分の低下が予想される。

(以上、1～12 図、付表 参照)

(12図) 業況BSIの見通しと実績の推移



(付表) 業況BSI、採算BSIの来期見通し

		製造業	建設業	卸売業	小売業	運輸・サービス	合計
業況BSI	21年 7 - 9月期	-43.2	-25.0	-56.7	-17.2	-30.3	-35.0
	来期見通し	-24.3	-71.4	-46.7	-27.6	-33.3	-39.5
採算BSI	21年 7 - 9月期	-30.6	-35.7	-58.1	-9.7	-30.3	-32.7
	来期見通し	-5.6	-50.0	-32.3	-12.9	-31.3	-25.3

【 本件に関する照会先 】

財団法人 青森地域社会研究所

担当：野里

TEL 017 777 1511